

# 宮城山岳通信 第19号

## 目次

巻頭言	富塚和衛 . . . . .	1~2 頁
定例役員会報告	事務局 . . . . .	2~3 頁
宮城支部山行報告		
☆第 35 回東北・北海道地区集会交流山行(蔵王古道)(公益事業山行)	千石信夫 . . . . .	4~5 頁
☆第 8 回登山教室(北山泉ヶ岳・泉ヶ岳)(公益事業山行)	富塚和衛 . . . . .	5 頁
☆初冬山行(七つ森)(共益事業山行)	加藤知宏 . . . . .	5~6 頁
山行以外の宮城支部行事開催報告		
☆第 35 回東北北海道地区集会開催報告	遠藤銀朗 . . . . .	6~7 頁
☆宮城支部晚餐会開催報告	木皿 謙 . . . . .	7 頁
宮城支部以外の日本山岳会関係行事参加報告		
☆自然保護全国集会参加報告	高橋二義 . . . . .	8 頁
☆秋田支部設立 60 周年記念祝賀会及び交流山行参加報告	富塚和衛 . . . . .	8~9 頁
☆令和元年度支部連絡会議及び講演会・年次晚餐会参加報告	富塚和衛 . . . . .	9~10 頁
令和 2 年 1 月~令和 2 年 4 月の行事予定	事務局 . . . . .	10 頁
編集後記	遠藤銀朗 . . . . .	11 頁

## 巻頭言 「ライチョウ」

支部長 富塚和衛

日本アルプスなどの高山を歩いていると里山では姿を見せない野鳥を目にすることがある。大好物のハイマツの実を特定の採餌場に運んで食べる習性のある「ホシガラス」。地上

を歩き回って虫などを捕食する「イワヒバリ」。そして夏は褐色、冬は純白と季節によって羽毛の色を変える「ライチョウ」等だ。その代表格はやはり「ライチョウ」ではないだろうか。

日本の「ライチョウ」は北半球北部に広く分布する「ライチョウ」の中で、分布の最南端に隔離分布する種と言う。この鳥が日本に渡ってきたのは約2万年前の氷河期。樺太・カムチャッカ半島を經由し本州中央部の高山帯に定住した。が、間氷期になり大半の「ライチョウ」は寒い北に北帰行し、ごく一部が日本の高山帯に残り生息分布するようになった。現在の生息確認域は頸城山塊、北アルプス、乗鞍岳、御嶽山、南アルプスとされる。高山植物で言えば「ウルップソウ」と言ったところのようだ。

私が初めて「ライチョウ」に出会ったのは2009年9月下旬、太郎平から雲ノ平を周遊し鷲羽岳(2,924m)と黒部五郎岳(2,840m)を登った時の事である。黒部五郎小舎をまだ薄暗い早朝に出発し、黒部五郎岳の山頂を踏み太郎平へ向かう。その途中の赤木岳(2,622m)付近、霧に霞み濡れそぼるハイマツ帯の登山道を行くと何やら蠢くものがいた。それが初めて目にする「ライチョウ」だった。しかも7羽の親子連れ。草むらで何やら啄んでいた。周囲を警戒するでもなく採餌していたのだ。近づいても逃げる素振りがない様子。その光景を今も鮮明に覚えている。2回目は剣岳(2,999m)に登る途中、剣御前小舎手前の雷鳥沢の登山道で見かけた。この時は、番と思われる2羽の「ライチョウ」がまるで登山者を案内するが如く警戒するともなくヨチヨチと前を歩いて行った。その他にも五竜岳(2,814m)の登山時や北穂高岳の登山時に目にしたことがある。

「ライチョウ」は標高2,400m以上の高山帯に生息すると言われている。私が目にした何れもそのような高山帯だった。この「ライチョウ」も、その個体数が激減していると言う。環境省のホームページには「1980年代(約3,000羽)→2000年代(約2,000羽)」の数字が載っている。環境省第4次レッドリストでは絶滅指標を絶滅危惧1Bとし、近い将来に絶滅の危険性が極めて高い種に分類している。面白い話がある。1902年(明治35年)、北岳を山行したウォルター・ウェストン一行がライチョウの群れを見つけウェストンが銃で3羽仕留め、6羽を食料に追加した旨を記述した本がある。明治の頃は「ライチョウ」にとっても生息しやすい山岳環境であったのでは推測されるエピソードだ。しかし、現代は、生息を脅かす要因がとして、キツネ等の捕食者の分布拡大等による生息環境の劣化の他に、登山客等の増加に伴う生息地の攪乱、気候変動による営巣環境・植生等への影響など生息を脅かす要因が多くなってきたようだ。山に関わりを持つ者の一人として、「ライチョウ」現状を深く考えるべきではなからうか。将来世代の為にも。

## 定例役員会議事録

高橋、佐藤

☆令和元年10月定例役員会議事録

計9名

日時：11月14日(水)18:00~20:30

場所：仙台市生涯センター5F会議室

出席者：富塚支部長、遠藤副支部長、草野、  
鈴木、柴崎、横山、富塚(真)、

《報告事項》

(1) 総務・財務委員会からの報告

①山岳関係機関からの受理状況

・令和元年度年次晩餐会図書出展即売等の  
案内について

・台風 19 号による登山道被害状況の情報提供依頼について

②令和元年度支部合同会議参加報告について

- ・古道調査について
- ・会員名簿の扱いについて
- ・個人情報保護法について
- ・支部M・Aのトラブル原因について

(2) 山行集会委員会からの報告

①第 9 回親子登山教室実施結果について

②第 8 回登山教室実施計画について

(3) 会報編集出版委員会からの報告

①宮城山岳通信第 18 号の発行について

(4) 第 35 回東北・北海道地区集会特別委員会からの報告

①記念講演会及び懇親会実施結果について

②交流登山実施結果について

③収支決算報告について

《審議事項》

(1) 会員逝去時の弔意に関する内規について

- ・役員を務めた会員逝去時に予算の範囲内で、支部長名で生花による弔意を表することとする内規改正案を事務局から提案、全会一致で承認された。

《その他》

特になし。

以上の事項について承認または了承される。

(事務局報告)

(事務局報告)

・台湾・北大武山登山報告書(秋田支部)について

・本部晩餐会への出席について

②令和元年度支部連絡会議について

(2) 山行集会委員会からの報告

①第 8 回登山教室実施結果について

②初冬山行実施計画について

③第 9 回親子登山教室実施計画

(3) 会報編集出版委員会からの報告

①宮城山岳通信第 19 号の発行について

(4) メディア委員会からの報告

①宮城支部H・Pへの掲載手続きについて

(4) 自然保護・科学委員会からの報告

①全国自然保護委員会参加報告について

《審議事項》

(1) 宮城県山岳連盟との係わりについて

- ・他支部同様、岳連のメンバーに加わり県内の山岳関係者との連携を図り、県内山岳界の発展に寄与し以って宮城支部の活性化に繋げてはとの事務局から提案も、現状で良いとの意見であった。

《その他》

(1) 宮城支部晩餐会の開催について

(2) 秋田支部設立 60 周年記念祝賀会参加報告について

(3) 宮城支部設立 50 周年記念誌残部の取り扱いについて

・事務局で適切に処理する事に

(4) 「山」11 月号への記事掲載について

- ・本部会報編集人からの要請により、第 35 回東北・北海道地区集会に関する原稿を提出した。

以上の事項について承認または了承される。

(事務局報告)

## ☆令和元年 11 月定例役員会議事録

日 時 : 11 月 14 日(水) 18:00~20:30

場 所 : 仙台市シルバーセンター 5F 会議室

出席者 : 冨塚支部長、遠藤副支部長、草野、  
柴崎、横山、冨塚(真)、高橋、佐藤  
計 8 名

《報告事項》

(1) 総務・財務委員会からの報告

①山岳関係機関からの受理状況

# 宮城支部山行報告

## ☆第 35 回東北・北海道地区集会

### 交流山行（蔵王古道）

#### （公益事業山行）

- ・実施日：令和元年 10 月 6 日（日）
- ・山域：宮城蔵王（蔵王古道）
- ・参加者：（宮城支部会員）冨塚和衛、佐藤昭次郎、草野洋一、太田正、横山哲、千葉正道、千石信夫、冨塚真味子、鳥田笑美、遠藤銀朗  
（宮城支部準会員）新井田祐治  
（宮城支部友会会員）山田孝司、針生紀子  
（宮城支部一般）工藤千鶴子、斎藤真、白幡典子、染谷由美子、田中真理子、森 宮子、岡部たえ子  
（北海道支部）長谷川雄介、漆崎裕子、藤原仁、藤原千恵、石田栄子、縄田さかゑ、池田真由美  
（青森支部）中村 勉、大久保 勉、須々田秀美、中村 仁、津島永孚、平尾勝美、遠藤智久  
（岩手支部）阿部陽子、中屋重直  
（秋田支部）今野昌雄、三浦昭男、鎌田倫夫  
（山形支部）野堀嘉裕、佐藤一広、安井康夫  
（福島支部）佐藤一夫、小林正彦、渡部展雄、菊池道彦、力丸美智子、竹永哲夫、渡部展雄、石井洋子、熊谷鶴三  
（千葉支部）石岡慎介  
（東京多摩支部）大船武彦、下田俊幸

#### 登山隊本部詰：

- （宮城支部会員）高橋二義、加藤知宏、山口正人（医師）
- （宮城支部友会会員）岩淵利秋
- （一般）猪股喜子（看護師）
- （蔵王古道の会）川合 隆

#### 蔵王古道の会案内役：

遠藤裕一、跡部 隆、浦川明彦、追木 丘、小室美雪、三島木進  
（計 66 名）

・報告者：千石信夫

第 35 回東北・北海道地区集会交流山行は令和元年 10 月 6 日に、各支部会員、支部友そして二口山歩会および登山本部詰と先達役を務めてくれた「蔵王古道の会」の皆さんなどを含め、計 66 名の参加者で催され、蔵王古道を遠刈田温泉から刈田岳山頂までのコースを歩いた。その内容を報告する。

この山行は蔵王古道、Aコース（全行程）・Bコース（澄川レストハウスから山頂）とした。早朝から天候は雨となったが検討の結果、決行することにした。

ホテル前 6：50 集合し出発式、支部長挨拶そして「蔵王古道の会」遠藤裕一会長から挨拶とコースの注意点などお話をいただいた。Aコース隊から 4 班に分けてそれぞれ出発。Bコース隊はホテルからバスを利用し澄川レストハウスからの登山とした。出発後、雨もあがり天候も回復し快適に登ることができた。AコースとBコースは澄川レストハウスから合流する予定だったが、予定通りにはいかず大黒天付近から合流し各班前後しながら行動となり若干予定時刻を超過したが無事登頂することができた。山頂からはバスにてホテルまで全員下山。その後ホテル前にて冨塚支部長から最後の挨拶、そして次回青森での再会を誓い解散となった。

緊急時の対応策は事前に策定した通りに、登山隊本部を設置し各コースリーダー、班長、救護班、医師、看護師など万全の体制を組んだ。そのうえ古道の会からは各班に先達として同行いただいた。2 名の看護師さんはみどり台外科内科小児科医院の協力をいただき

対応することができた。

最後にこの度の集会において企画段階から後援、協力をいただいた蔵王町、「蔵王古道の会」の皆さま、そしてはみどり台医院の山口会員（院長）及び看護師の皆さまに対し、労を惜しまずご支援をいただきましたこと心より感謝申し上げ集会の報告といたします。

## ☆第8回登山教室（北泉ヶ岳・泉ヶ岳）

### （公益事業山行）

- ・実施日：11月10日（日）
- ・山域：船形連峰北泉ヶ岳～泉ヶ岳
- ・コース：オーエンス泉ヶ岳自然ふれあい館前駐車場水→水神→三叉路→北泉ヶ岳→三叉路→泉ヶ岳（昼食）→（滑降コース）→お別れ峠→駐車場
- ・参加者：（会員）富塚眞味子、富塚和衛（支部友会員）村上敏郎、津久井宏、白田昭一、鳥田伊志、多田孝徳、佐藤富士子（一般）川村裕信、川村ゆき子、菊池しず子、小山敏男、三村好栄、平間壽範、阿部真美、楊世英、宮崎浩幸、今井弘、今井一枝、永野仁、上田一広（計21名）
- ・報告者：富塚和衛

今年度2回目となる第8回登山教室を泉ヶ岳山域で実施した。8:00に大駐車場に集合する。天候は晴れも少し風がある。参加者21名が集合したところで、コース概要を説明する。加えて公益社団法人日本山岳会及び宮城支部のガイダンスを行う。8:40、登山ポストに登山計画書を投函し、登山開始。参加者の中には登山が初めての人もおり、ゆっくりペースで水神コースを一路石碑が立つ標高825mの水神を目指す。標高を上げるにつれ周囲の広葉樹は色を残す木々が少なくなる。9:30、

水神に到着する。此处で一本入れる。21名の足取りは順調だ。休憩時間を利用して安全登山のための最低必要な装備品（雨具・ヘッドランプ・地図とコンパス）について説明する。

水神から北泉コースに道を取り、標高1,253mの北泉ヶ岳に向かう。サビ川を渡り春には山野草が咲く「お花畠」を過ごし、大岩が転がる急登を一気に登り、10:15、標高1,085mに位置する三叉路に辿り着く。此处で2回目の休憩を取る。休憩を利用して登山での歩き方を簡単にレクする。

登山者が数人通り過ぎた後、追いかけるように北泉ヶ岳山頂を目指す。「4本桂」を過ごし一登りすると北泉ヶ岳の山頂だ。

時刻は10:45。北泉ヶ岳山頂は残念ながら眺望が利かない。15分ほど休憩後、記念写真を撮り、泉ヶ岳(1,172m)に向かう。三叉路まで下り、此处で道を左に取り「くまざさ平」をゆっくりペースで登る。途中で一休みする。周囲の木々はすっかり葉を落としている。呼吸を整えたところで、泉ヶ岳山頂を目指す。山頂の手前に眺望が利く平らなガレ場がある。此处で昼食を撮ることにした。時刻は12前。風は冷たいが眺望は抜群だ。蔵王連峰から船形連峰までが丸見えだ。船形山の山頂付近は白いベールに覆われている。一般参加者も宮城の山岳風景に感動していた。

昼食後、泉ヶ岳山頂で記念写真を撮り、12:35、下山開始。帰路は滑降コースを取った。カモシカコースを左に分け、大壁を一気に下る。標高900mの見返平一本入れ、お別れ峠を過ごし、大駐車場へと帰る。

14:00過ぎ、全員無事、トラブルもなく帰還した。予定タイムより1時間程早い第8回登山教室山行だった。一般参加者の平均年齢が50代であった事もあり思ったより早いとなった。今回の登山教室には初めて外国の方も国際色ある山行となりました。

## ☆初冬山行（七つ森）

### （共益事業山行）

- ・実施日：令和元年 12 月 8 日（日）
- ・山域：七ツ森 松倉山 291m、撫倉山 359m、大倉山 327m（黒川郡大和町）
- ・コース：信楽寺跡駐車場－松倉山山頂－撫倉山山頂－大倉山入口の標識－大倉山山頂－《昼食》－蜂倉山への標識（分岐）－大倉山入口の標識－梅の木平展望台－信楽寺跡駐車場
- ・参加者：（会員）横山哲、遠藤銀朗、加藤知宏、草野洋一、千葉正道、冨塚和衛、冨塚真味子、鳥田笑美  
（支部友会会員）村上敏郎、山田孝司、津久井宏、佐藤富士子、白田昭一、多田孝徳、川嶋郁子  
（一般）神鳥浩典  
（計 16 名）
- ・報告者：加藤知宏

今回山行集会委員として、初めてリーダーを務めることとなった。

当日は、気温は低いものの、降雪はなく、穏やかな天気恵まれた絶好の登山日和だった。信楽寺跡駐車場から松倉山に続く道では、10 月の台風第 19 号の影響で、水路に架かるコンクリート橋が崩落していたが、脇にある梯子で先に進むことができた。ここから松倉山山頂までは、急登が続いた。参加者の歩行ペースを確認しながら歩を進めた。松倉山山頂の南側にある 1 等三角点も確認した。

展望は木々の隙間から見える程度。その後、山頂から北へ下り左折する。杉林を通り、尾根に出て、展望が開けると撫倉山の山頂に着いた。山頂からは吉岡の市街地や遠くには古川の街並みを一望することができた。大展望を楽しんだ後は、大倉山山頂へと向かう。下り途中、天狗のすもうとり場や蟻ノ戸渡りの岩場とハシゴ場がある。慎重に通過し、急坂の尾根を下っていく。下りきると、今度は大倉山山頂に向かう急登が待ち構えていた。登っては下るの繰り返しだ。この急傾斜の山腹を登りきると、樹林の中に大倉山の山頂が見えた。ここで小一時間、昼食をとる。昼食後、山頂から少し戻り、そのまま西へ急坂を下り、蜂倉山への分岐、大倉山入口の標識を經由し、七ツ森自然遊歩道を下っていく。途中、梅の木平展望台で 10 分ほど休憩を取り、出発地の信楽寺跡駐車場に 14 時 30 分に到着した。メンバー皆元気な様子で、ほぼコースタイム通りで到着することができた。

今回山行の総括として、16 名の大所帯での活動ということもあり、ペース配分の難しさを感じた。今後の山行でリーダーを務める際は、メンバー各員の疲労度、歩くスペース、休憩のタイミングなど全体を掌握しながら落伍者が出ないよう努めていきたいと思う。

最後に、職場の同僚で広島県から派遣で来ている神鳥さんを始め、多くの方に参加いただき、ありがとうございました。

## 山行以外の宮城支部行事開催報告

### ☆日本山岳会東北・北海道地区集会開催報告

- ・報告者：遠藤銀朗

令和元年 10 月 5 日、6 日に、宮城支部主催で日本山岳会東北・北海道地区集会が蔵王町遠刈田温泉で開催された。地区集会にはメンバーである東北・北海道各支部に加えて東京多摩支部、千葉支部、遠くは岐阜支部から総勢約 70 名の参加を頂いた。東日本大震災（2011, 3, 11）のため中止した年があったが、今年度の開催が全国支部懇談会と同様に第 35 回になった。この間、

今回を含めて宮城支部は8回の東北・北海道地区集會を主催することになった。

開催に当たって、宮城支部内に東北・北海道地区集會特別委員会を設置し、先ず開催場所を、過去3回（秋田支部・岩手支部・山形支部）の地区集會の実施内容等を参考にさせて戴き、「地元につながる山に関わる生活・文化」をコンセプトに対象山域を宮城蔵王の「蔵王古道」とすることに決定した。以後、通算7回の特別委員会を開催し、東北・北海道地区各支部の会員等の皆様をお迎える準備を行った。

1日目(10月5日)は、ACTIVE RESOORTS MIYAGI ZAO ホテルにおいて14:00からの参加者の受付を行い、14:30から同ホテル3階「エメラルド」の間において東北・北海道地区支部長會議を開催した。これに続き、15:30から記念講演會を実施した。講演は、蔵王町教育委員会生涯学習課課長補佐兼社会教育主事の佐藤洋一氏に「蔵王の信仰と歴史と蔵王古道」と題して実施いただいた。講演内容は、「蔵王山」以前、修験道の流入（蔵王山の誕生）、修験勢力の移り変わり、「蔵王の御山詣り」ルートと参詣登山等についてのお話でした。蔵王古道交流登山の予備知識としても大変に有意義な講演であった。

同日18:30から、同ホテル3階「サファイア」の間において交流懇親會が開催された。交流懇親會では、来賓として出席いただいた地元蔵王町長の村上英人氏からご祝辞を頂き、そのご前回開催支部の野堀嘉裕山形支部長の乾杯の音頭で宴會が始まった。宴席では各支部代表者から交流のスピーチをいただくとともに、各支部の「地元ソング」が和やかに、披露され、中にはハーモニカ伴奏付きの支部もあり、交流・親交の宴は大いに盛り上がった。この交流懇親會が閉會となった後も、同ホテル1階「カナリア」において二次會が開催され、時間が許される限度まで交流の場が盛り上がった。

2日目(10月6日)の交流山行は、蔵王は国定公園に指定されている東北地方を代表する山域で行われた。記念講演會において佐藤洋一氏から紹介されたように、蔵王山は古来より修験者の山として崇められてきた信仰の山で、当日は紅葉が誘う古の道を辿った。この東北・北海道地区集會交流山行の詳細については、千石信夫会員の山行報告をお読みいただきたい。

## ☆ 令和元年度宮城支部年次晚餐會開催報告

・報告者：木皿 謙

今年の日本山岳會宮城支部の年次晚餐會は、十二月十五日（日曜日）例年通り仙台一の繁華街東一番町通りに面したスマイルホテルの三階、シェルブールで開催されました。参加者は何故か十三名、今年最後の晚餐會に相応しい人数でした。會は、富塚支部長の挨拶、千石会員の乾杯の発声でスタート、いつもながらの和氣藹々の進行でした。

恒例のオークションも開催しました。参加者が少なく盛り上がりもイマイチかなと心配しましたが、故遠藤正治会員のご遺族から託された遺品のピッケル辺りになると結構白熱した雰囲気になり、売り上げ金額は三万五千三百円となりました。総括としては参加者、売り上げ共にもう一段の底上げが欲しかったと思いましたが、そこはJAC、會は最後まで和やかに進行致しました。

## 宮城支部以外の日本山岳会関係行事参加報告

### ☆自然保護全国集会参加報告

・報告者：高橋 二義

今年の自然保護全国集会は、埼玉支部の主管で、7月6日（土）～7日（日）の両日、大宮駅の一つ先東北本線さいたま駅近くの、「埼玉県男女共同参画推進センター」で開催されました。宮城支部からは、自然保護委員長の柴崎支部長が用事のために、宇都宮委員と高橋委員の2名で参加しました。

開始後、基調講演が二つあり、分科会は三つ用意されておりました。宮城は二人出席しておりましたので第一分科会は『絶滅危惧種の保全』と云う課題には宇都宮氏が出席し、第三分科会は『山に自然を守るために出来る事』と云う課題には高橋が出席いたしました。

分科会では、各支部からの活動報告がそれぞれ発表されました。宮城支部からは、二つの点をお話いたしました。その一つは、東北大震災時に発生した大津波の被災地復興事業の一つに被災地各町で地盤の嵩上げ工事が展開されておりますが、その盛り土に使われる土が、近くの里山が土取り場となり、里山の自然が無くなり、景観が大きく変化している事と、今一つは、栗駒山の世界谷地で宮城県自然保護課が主催している、「笹の刈り取り作業」についてであります。笹の刈り取り作業は理解できるとしても、その方法が湿原植物に与える打撃が大きいのでは？と、対応の問い合わせを文書で行っても回答が無いので参加を保留している事を報告いたしました。

2日目の全体会議の中でも、特に司会の方から要望が有って同じ内容を報告しております。午後は近くの「北本自然観察公園」での観察会が計画されており、今にも降り出しそうな空模様の中、高橋が参加してきました。色々初めて出会う植物もありましたが、私にとっては「ヤブミョウガ」と云うのは、全く初めて出会った植物でした、姿は笹竹に似ておりましたが頭頂部から花茎を出して20cmくらいに花が付いており、葉の表面はザラザラしておりとても不思議に感じました。帰り近くには雨が降り出しましたて、早々に引き揚げ帰路に着きました。

### ☆秋田支部設立 60 周年記念祝賀会及び交流参考参加報告

報告者：富塚 和衛

去る10月19日（土）～20日（日）に秋田支部設立60周年記念祝賀会があり、参加したので報告する。各支部等からの参加者は54名。宮城支部からの参加者は千葉正道、草野洋一、太田正、富塚和衛会員の4名。なお、秋田支部は1959年6月28日に、秋田魁新報社講堂において、全国15番目の支部として誕生している。

一日目の記念祝賀会は、外国人から「日本一有名な秘湯」と呼ばれている乳頭温泉郷・鶴の湯温泉別館「山の宿」で開催された。鈴木秋田支部長の身の丈に合った支部運営に務め古希を目指したい旨の挨拶があり、その後、設立会員であった長岩永年会員からの支部設立経緯のお話、古野日本山岳会会長の祝辞、地元仙北市副市長の祝辞あり、最後に、親交のある韓国山岳協会と中華民国山岳協会からの祝詞が披露された。最後に、佐々木永年会員から第1回東北地区集会（1982年）がこの地で開催された事など支部の歴史が紹介された。



続いて、講演会が行われた。講演は「山岳信仰と温泉」と題して、副支部長でもある佐藤和志鶴の湯温泉代表取締役会長が講師を務められた。講演の内容は、鶴の湯温泉神社に関わる事や経営に至った経緯などであった。

懇親会は会場を鶴の湯温泉本館大広間に移し、今野顧問（前支部長）の挨拶で始まり、参加支部を代表して佐藤福島支部長が祝辞を述べられた後、開会された。

酒処秋田の美酒に山の料理に宴は盛り上がり夜遅くまで続いた。

二日目の交流山行はA・B・Cコースに分かれて行われた。宮城支部からの参加者は全員Aコースに参加した。Aコースは鶴の湯温泉～大白森（1215.5m）を往復するコース。天候は絶好の山行日和。8:30、鶴の湯神社に参拝し登山開始。緩やかな杉林、カラマツ林を登ると約1時間で展望台に着く。更に、ブナ林を歩き続けること約1時間、大白森が望める小白森山（1144m）に辿り着く。此処から大白森までの道に悪戦苦闘する。泥濘の登山道に足を取られ転倒する者も。最後に急斜面を登り切ると目的地に辿り着く。約3時間の山行であった。十和田八幡平国立公園に位置する山頂一帯は広大な高層湿原で草紅葉が「今が盛り」とばかりに風に揺られていた。実に長閑である。岩手・秋田を代表する奥羽山脈を形成する山々の眺望を楽しみながら昼食を戴いた。帰路は往路を下山、15時前に鶴の湯温泉に着き、解散となった。

## ☆令和元年度支部連絡会議及び講演会・年次晚餐会参加報告

報告者：富塚 和衛

令和元年12月7日（土）、本部主催の支部連絡会議及び講演会・年次晚餐会が京王プラザホテルにおいて開催されこれに参加したので報告する。

午前中の支部連絡会議では冒頭、古野淳新会長から「新しい時代に向かって①遭難防止②山岳文化③支部活動④自然保護の四つの柱」推進していく旨の挨拶があった。その後、永田弘太郎総務担当常務理事司会の元、会議が進められた。

会務報告・連絡として、①120周年記念事業の進捗状況②「山の天気ライブ授業」今後の予定と開催希望山域③登山計画書提出状況と事故事例について④支部での名簿作成及び個人情報について⑤山岳エリアにおける被害情報について（会場内に展示及び「令和元年の台風及び豪雨による山岳被害状況～全国支部の被害調査」として冊子化配布）等の報告・連絡があり、その後質疑応答があった。また、今後の「山の日」記念事業が2020年大分県、2021年山形県で予定されている旨の報告があった。

午後からの令和元年度年次晚餐会記念講演会が開催された。講演は次の通り。

第1部；日本・エクアドル外交関係樹立100周年記念友好合同登山隊報告「赤道直下の氷河の山での交流」演者；渡辺雄二栃木支部長

第2部；第21回秩父宮記念山岳賞受賞記念講演「西表島からボルネオ島へ」演者；安間繁樹会員

第3部；海外登山助成登山隊報告「ラオポシ南壁初登攀」；中島健郎会員

第4部；特別対談「いま、極地に注目！～地球環境を考えるために」；舟津圭三氏（南極犬ぞり横断等）、荻田泰永氏（南・北極地単独行等）；（聞き手・神長幹雄会員）

夕刻からは年次晚餐会が令和天皇ご臨席の元に開催された。会員等の参加者は500を超えた。宮城支部からは筆者と柴崎会員の2名。晚餐会は会長挨拶後、物故会委員への黙禱に続き、新永年会員顕章（代表挨拶節田重節会員）、第21回秩父宮記念山岳賞表彰（安間繁樹会員）、高額寄付者への感謝状贈呈（梶正彦会員）、新入会員紹介代表挨拶（中谷健太郎（中1年））があり、鏡開きが行われた。鏡開きには法被姿で天皇陛下も登壇、木槌を振り下ろされ、会場は大いに盛り上がり

った。この後、八木原國明会員（日本山岳・スポーツクライミング協会会長兼群馬県山岳連盟会長）のご発声で乾杯が行われ、宴会の幕は切って降ろされ会員相互の懇談が行われた。晚餐会は予定時間を大きく過ぎて閉会となった。

## 日本山岳会宮城支部の令和2年1月～令和2年4月の行事予定

### ◎2020年1月

☆1月元旦（水）

有志泉ヶ岳元旦登山

☆1月上旬

宮城山岳通信第19号発行

☆1月15日（水）

定例役員会（仙台市シルバーセンター）

☆1月26日（日）

冬山山行

### 巖冬期山行

### ◎2020年3月

☆3月18日（水）

定例役員会（仙台市シルバーセンター）

☆3月22日（日）

会計監査

☆3月29日（日）

早春山行

### ◎2020年2月

☆2月13日（木）

定例役員会（仙台市シルバーセンター）

☆2月16日（日）

### ◎2020年4月

☆日時未定

移動総会（山域未定）

☆日時未定

春山山行（山域未定）

## 編集後記

「宮城山岳通信」を3ヶ月に1回の発行するようになってからまる3年が経過しました。それ以前は、年間1～2号が不定期に発行されておりましたので、この3年間は日本山岳会宮城支部の活動の内容をできるだけ定期的にかつタイムリーに支部関係者の皆さんにお伝えすることができたのではと思っております。今回発行の宮城山岳通信第19号も、ほぼ予定通りに発行することができ安堵しております。

このような機関誌・会報のタイムリーな発行のためには、何よりも会員の皆さんのご協力とご支援が必要であることを、編集出版委員一同痛感しております。今後とも会報発行に対する宮城支部の関係者の皆さんのご支援を宜しくお願い申し上げます。

会報編集出版委員長 遠藤銀朗

宮城山岳通信

発行 公益社団法人日本山岳会 宮城支部

発行日 2020年1月8日、 発行人 富塚和衛

編集出版委員 遠藤銀朗、千石信夫、富塚和衛、細川光一、三宅 泰

事務局 983-0821 仙台市宮城野区岩切畑中9-12 Tel・Fax 022-255-7398